各　　位

2020 年 7 月 17 日

串本町から新種のエビが発見されました

図. キイカギテシャコエビの生時の画像

経　　緯

2018 年 5 月に串本海中公園前の水深 14 m地点にて当館職員が見慣れないエビを採集し、十脚甲殻類の分類を専門とする千葉県立中央博物館の駒井智幸 動物学研究科長に精査していただいたところ、新種であることが判明しました。

採集されたエビはカギテシャコエビ属 *Naushonia* の 1 種で、この度「キイカギテシャコエビ（紀伊鈎手蝦蛄蝦）*Naushonia kiiensis*」として学術誌「Zootaxa」より公表されました。

概　　要

カギテシャコエビ属のエビ類は平たい鎌のような第一胸脚が特徴で、これまで世界から 15 種、国内からは *N. carinata*、*N. japonica*、*N. lactoalbida* の 3 種が記録されていました。日本から記録されている 3 種類はいずれも過去 20 年間の間に発見されたもので、*N. carinata* と *N. lactoalbida* の 2 種が琉球列島から、*N. japonica* が本州の温帯域から記録されています。

本属のうち、4 種はアンキアラインや海中洞窟から見つかっていますが、その他の多くの種は比較的浅い海に棲息しています。それにもかかわらず、海底に穴を掘って隠れ住むという生態から、採集されることが少ない、非常に珍しいエビ類といえます。

今回発見された新種はフランス領ポリネシアやサウジアラビアの紅海沿岸から知られている *N. serratiplama* に最も良く類似しますが、以下の点で *N. seratiplama* と区別されます。①甲の胃域正中と亜正中にある隆起が棘で覆われる；②背面から見ると甲の中央部にある頸溝が W の形である；③甲の背面後半部に皺がある；④第一腹節の背側に明瞭な中央隆起を有する；⑤第一胸脚の長節は背側表面に内側の縁に隣接した縦方向の隆起を有する；⑥第一胸脚の長節内側末端部にある葉状の突起が 3 つの大きな歯を有する；⑦第一胸脚の掌節外縁の棘が少ない。

これまでに国内から記録されていたカギテシャコエビ属 3 種のうち、本州からは *N. japonica* のみが知られていました。キイカギテシャコエビはこれまで串本町から 1 個体しか見つかっていないため、詳細な分布域については不明ですが、本種の発見は本州沿岸海域からの 2 種目の記録となります。なお、本種の種小名と和名は紀伊半島に因みます。

展　　望

これまでに国内から記録されていた 3 種のカギテシャコエビ類に加え、Konishi (2001)は三重県の五ヶ所湾から種不明のカギテシャコエビの幼生を記録しています。前述したとおり、これまで本州沿岸からは *N. japonica* のみが知られていたため、その幼生は *N. japonica* のものである可能性が示唆されていました。一方、三重県にごく近い串本から本属の新種が発見されたことにより、幼生がキイカギテシャコエビのものである可能性も出てきました。今後、成熟した個体の遺伝子データを用いた種同定により、Konishi (2001)で記録された幼生がいったいどの種のものであるのか判明することが期待されます。

さらに、本種はこれまで 1 個体しか採集されていないため、その生態については謎に包まれています。今後、新たな個体を採集することができた際には、水族館で飼育・展示を行い、多くの方にその不思議な姿を知っていただくとともに、その生態に

ついても調査を行っていきたいと思っています。

論文情報

Komai, T.* & Hirabayashi, I. 2020. A new species of the laomediid mud shrimp genus *Naushonia* Kingsley, 1897 (Decapoda: Gebiidea) from Japan. Zootaxa, 4816 (1), 092-100.

問い合わせ先

串本海中公園センター

平林　勲

Tel：0735-62-4875

E-mail：　hirabayashi@kushimoto.co.jp

責任著者*

千葉県立中央博物館　動物研究科長

駒井　智幸

Tel：043-265-3111

E-mail：komai@chiba-muse.or.jp